

緊急 トップインタビュー

旅館大沼（大崎市・東鳴子温泉）

湯守 大沼 伸治さん(57)

コロナ禍に立ち向かう地元経営者の肉声を共有するシリーズ。今回は大崎市東鳴子温泉にある旅館大沼の5代目湯守、大沼伸治さん(57)です。

◇
一現状をどう見えていますか。

旅館業にとどまらず、地域存亡の危機です。人々の移動を前提とした観光・宿泊業は、外出自粛の中では決定的に成り立ちません。100年の歴史を刻んできた当館もどこまで踏みとどまれるか、正直分かりません。

一4月6日から休館しています。

休館しても実は忙しい毎日です。通常、宿は一年中切れ目なくお客さまがいるので、修繕はやりにくかった。なのでこの間、風呂場を天井まで磨いたり、客室の手入れをしたり、長年の懸案を一気に片付けています。

一常連客600人にマスク

今こそ温泉で心身再生を



を郵送しました。

入手困難と思い手紙を添えて送ったところ、たくさんの返信をいただきました。文面からは多くの方が巣ごもりの閉塞(へいそく)感に苦しみ、温泉でリラックスできる日を切望していることが伝わってきました。涙なしでは読めませんでした。逆に励まされました。

一コロナ後をどう見据え

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

ていますか。

火山大国に暮らす日本人は古来、温泉を心身の再生に取り入れてきました。湯治文化はその象徴です。今、多くの人が先行き不安のストレスを抱え、癒やしを求めています。今ほど温泉が必要とされている時はないと思います。6月の再開を見据え、準備を万全にしています。

information

自宅にいながら温泉気分が味わえる企画商品「わがや湯治」セットを開発中。「美人の湯」とされる重曹泉の入浴剤とフェイシャルマスク、飲用の温泉水に地元産野菜もセットにして届け、消費の落ち込みに苦しむ地元農家も応援したいと意気込む。近日発売予定。連絡先は旅館大沼0229(83)3052。

企画・制作/河北新報社営業局